

海外安全対策情報（2024年8月～11月）

1 社会・治安情勢（コントロールリスクス社提供ほか当館調べ）

（1）テロ情勢

ア 傾向

・ 8月

バロチスタン州での分離主義運動に対する治安部隊の掃討作戦への報復として、B L Aが同州各地で同時多発的にテロを敢行し多くの犠牲者が発生した。

また同州では、中国が関係する開発プロジェクトを対象としたテロは2件発生したほか、8月14日の独立記念日を前に、クエッタでは無差別テロとみられる事件が複数発生した。

・ 9月

バロチスタン州グワダルにおいてB L Aに対する大規模な軍事作戦が敢行されるも、B L A側も報復とみられる攻撃を敢行するなど、政府の強硬策に大きな効果は見られない。

軍事への財政支出が及ぼす経済的混乱も注視する必要がある。

カラチをはじめとするシンド州、パンジャーブ州各都市において、テロ組織等の摘発が進められている。テロ組織の浸透は進んでおり、大規模な攻撃が起こりうることを意味している。

・ 10月、11月

ジンナー国際空港近くでの自爆テロや11月9日に発生したバロチスタン州クエッタ駅での自爆テロは、それぞれ中国権益やパキスタン軍を標的にしたとする一方で、民間人も巻き添えになった、或いは標的にされた点に注意を要する。

ジンナー国際空港近くでの自爆テロ事件被疑者の中には、カラチ大学の学生が含まれ、後日市内で逮捕されたとする報道からも、B L A等テロ組織によるリクルート活動が当地にも相当程度浸透していることが分かる。

既にクエッタでは駅・スタジアムでのテロが発生しており、その犯行主体の多くはB L Aである点を踏まえると、今後当地でのソフトターゲットに対するテロの発生も否定できない。

イ 主なテロ事件

・ 8月12日 バロチスタン州クエッタ

クエッタ駅近くのホテル付近で手榴弾が投擲され、爆発により子供を含む7名が負傷。

・ 8月13日 バロチスタン州クエッタ

市内女子校に手榴弾が投擲され、警備員が負傷。

・ 8月13日 バロチスタン州クエッタ

アユーブ・スタジアムで独立記念日関連イベントが開催されているところに手榴弾が投擲され、2名死亡、3名負傷。

・ 8月21日 バロチスタン州カーラート

I E D爆破により、石油ガス探査会社従業員5名が死亡。

同会社に中国人エンジニアがいたため攻撃対象とした旨、バローチ同盟軍（U B A）が犯

行声明を发出。

- ・ 8月23日 バロチスタン州ハーラーン
CPEC関連プロジェクトに関わる企業が保有する建設機械等が破壊。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 8月25日 バロチスタン州ピシン
市場でバイク使用の爆破テロが発生、女性子供3名死亡、警察官含む13名負傷。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 8月26日 バロチスタン州ムーサーヘール
30~40名で構成された武装集団が幹線道路封鎖、通過する一般車両などを検問し、パンジャーブ人を標的に少なくとも23名を殺害。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 8月26日 バロチスタン州マストウング
武装集団が部族警察詰め所を襲撃。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 8月26日 バロチスタン州カーラート
武装集団が治安部隊を襲撃、11名が死亡。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 8月26日 バロチスタン州 ポーラーン
バロチスタン州とイラン他各地を結ぶ鉄道の鉄橋が破壊され、山中で銃殺された遺体が発見された。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 9月25日 バロチスタン州 クエッタ
東部バイパスにおける爆破により、警察官2名を含む12名が負傷。
- ・ 9月29日 バロチスタン州 パンジグル
武装集団が集落を襲撃、パンジャーブ人労働者7名が死亡。
- ・ 9月30日 バロチスタン州 ケチ
軍のキャンプへの襲撃により兵士2名が死亡。
BLAが犯行声明を发出。
- ・ 10月10日 バロチスタン州 ドウキ
鉱山を武装集団が襲撃し、20名死亡、7名負傷。
BLAの犯行とみられるが、同組織は関与を否定。
- ・ 10月15日 シンド州 ラルカナ
パキスタン人民党（PPP）シンド支部代表宅に手榴弾が投擲、人的被害なし。
シンド革命軍（SRA）が犯行声明を发出。
- ・ 10月28日 バロチスタン州パンジグル
建設現場に配備されていた警備員が襲撃され5名死亡。
BLAが犯行声明を发出。

(2) 一般犯罪情勢

ア 傾向

- ・ 8月

チェヘラム（※シーア派追悼行事のひとつ）を前に、市内（グルバハール）に集結していたシーア派グループとスンニ派急進派政治団体（A S W J）が衝突し、銃撃戦に発展、2名が死亡し9名が負傷した。

これにより、26日のチェヘラムでは、一時的に携帯電話使用制限措置が実施された。

- ・ 9月

カラチで「セーフシティ・プロジェクト」が本格始動したとされる。2027年までに事業が完了するとされており、総予算は360億ルピーと報道されている。

ナンバープレート読み取り装置や顔認証が可能な監視カメラの導入が予定されている。

犯罪面では、シンド州内で「冒涇罪」による殺人事件が発生した。

（参考：2023年には、預言者ムハンマドに対する冒涇の告発による大規模な暴動がパンジャーブ州で発生し、キリスト教教会が焼き払われる事件が発生している。）

- ・ 10月

パレスチナ自治区ガザ地域における武装勢力「ハマス」とイスラエルとの交戦が始まって1年となる10月7日、カラチにおいて反イスラエルデモが実施された。米国総領事館付近は厳重な警戒体制が敷かれるも大きな混乱はなかった。

また、外国人（ポーランド人）を対象とした警察官に扮した犯罪集団による恐喝とみられる事案が発生している。

- ・ 11月

当地S I T E地区繊維工場における民間警備員による中国人2名の殺人未遂事件が発生した。中国人が警備員と口論し、激高した警備員が発砲したとされている。

本事件以降、治安当局は派遣される警備員の身元調査を徹底するよう通知を発出している。

イ その他主な一般犯罪事件

- ・ 8月30日 カラチ グリスターネ・ジョーハル

ショッピングセンターのセールに多くの客が殺到し、暴動に発展。

- ・ 9月9日 カラチ コーランギー

市民が強盗容疑者2名を捕まえ私刑を敢行。

- ・ 9月9日 カラチ スーパーハイウェイ

警察と強盗間における銃撃戦が発生。

- ・ 10月11日 カラチ チョーランギー

ヒッチハイカー（女性）が、コーランギー付近で降車（バイク）した際、銃を突きつけられて金品を奪われる強盗事件が発生。

- ・ 10月13日 カラチ プレスクラブ付近

「冒涇罪」に問われた人物が警察によって射殺された事件を受けて、市民団体が抗議活動を行ったが、これに右派系宗教団体のパキスタン・ラバイク運動（T L P）が反応し両団体が衝突。事態収束のため警察が介入し催涙弾等が使用された。

- ・ 10月24日 カラチ DHA

家政婦が雇い主に睡眠薬を飲ませ、数百万ドル相当の現金、貴金属を盗む。

2 当面の警戒を要する主要行事

- ・ 12/25 クリスマス（※近年では宗教間融和を装うためにクリスマスを祝う傾向にあるがイスラム保守強硬派や過激派の中にはそれを快く思わない者もいる。なお、当日は建国の父、ムハンマド・アリ・ジンナーの誕生日）
- ・ 12/31～1/1 越年行事（※祝砲の流れ弾で死傷する危険性がある。）

3 邦人被害事案

邦人被害事案には接していない。

4 参考（テロ事件発生件数1月～10月）

※在イスラマバード民間シンクタンク「パキスタン平和研究所」発出）

（1）カラチ市

カラチ市におけるテロの脅威は依然として存在する。

カラチ市のテロ発生件数（1月から10月）は10件で、死者14名、負傷者14名であった（前年同期11件、死者14名、負傷者26名）。

テロ発生件数は、横ばいとも評価できるが、空港直近における自爆テロの発生もあり、注意を要する。

標的は治安機関、スンニ派宗教指導者、シーア派宗教指導者、政治家、外国権益であり、BLA、TTP、LeJ等が犯行声明を発出している。テロ攻撃のほとんどは銃撃であるが、自爆テロへの警戒も必要である。

2024年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	2	2	0	1	2	0	2	0	0	1			10
死者数	2	2	0	3	1	0	2	0	0	4			14
負傷者数	4	0	0	2	1	0	3	0	0	16			26

（2）シンド州（カラチ市を除く）

シンド州のテロはカラチ市に集中していることが分かる。

ただし、武装集団による犯罪行為（強盗、誘拐、殺人等）は散見されるため、州内移動には注意が必要である。

シンド州北部のインダス川北側域を中心に対ダコイト作戦が定期的に敢行されており、同地域への訪問は注意が必要である。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1			3
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			1
負傷者数	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0			2

(3) パロチスタン州

パロチスタン州でのテロ発生件数（1月～10月）は、164 件で、死者 256 名、負傷者 379 名（前年同期 101 件、死者 201 名、負傷者 25 名）であった。

主な標的は、政治指導者であるが、非パロチスタン人（パンジャブ人等）の犠牲者も目立った。

BLA、BLF、BRAS 及び IS-K（ホラーサーン州）/ ISPP（パキスタン州）によるテロ攻撃が多くを占め、手榴弾やIEDによる攻撃、治安機関への襲撃が目立つ。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	17	48	7	8	13	6	11	28	17	9			164
死者数	45	42	19	18	16	4	6	57	19	30			256
負傷者数	41	83	20	11	37	14	19	84	46	24			379

5 在留邦人の安全に関わる対策等

(1) 最近の治安情勢を受けた注意点

- ・ 象徴的なターゲットへの攻撃への注意
中国権益や空港等ソフトターゲット、政府重要施設は十分な警戒を要する。
- ・ 欧米権益への攻撃の可能性
中国権益に対する攻撃が目立つため、治安リソースがそちらに割かれる傾向にある。
- ・ ローンオフエンダー型テロ事件への懸念
BLAの発信力が強まれば、それだけ感化される者も増える。
- ・ 通信制限に対する備え
IDEAS 2024 やイスラマバードにおいて実施されたPTI 抗議活動に伴い、カラチ市内でも大規模な通信制限措置が取られた。
邦人間の連絡体制にも大きく影響を及ぼすため、それを想定した各企業内の約束事（緊急時の集合場所、行動方針など）を決めておく。
- ・ 警備員会社への通達
2023 年もしばしば見られたが、IDEAS 2024 を前に、民間警備員が武器を携行したまま車両の荷台に乗車することを禁止する通知が、パキスタン警備業協会から発信された。
違反企業（警備会社）には罰則が科せられる。
同行為（公の場で武器を見せる行為）は法律により禁止されているが、形骸化している。念のため警備員の警護方針を確認しておくこと。

(2) テロ対策

- ・ 移動間は警護員を帯同させ、自宅においても警備員の配置を検討する。

- ・ 企業・個人等の情報や行事予定の共有は必要最低限にする。
- ・ 出退勤においては複数ルートを選定するとともに、出退勤時間を変えることが望ましい。
- ・ 治安当局からの要請のとおり、防弾車が準備できれば安全性は増す。
- ・ 治安情勢の変化に伴い、治安当局への応援要請も検討する。
- ・ テロの標的となっている場所（政府機関・軍・治安当局、宗教施設、中国関連施設、米国関連施設）への立ち寄りや寄りは努めて避け、集会・抗議活動等には近づかない。

(3) 銃器使用による強盗（ガンポイント）対策

- ・ 警護員を帯同させる。
- ・ 銀行・両替商の利用者が標的とされやすいため、現地職員に業務を委託するなど被害に遭わない工夫をする。
- ・ 犯人はバイクや徒歩で近づいてくるほか、標的選定のために見回るケースもあることから、同じ場所に長時間滞在することを避ける。
- ・ 渋滞を避ける。

(4) デモ・抗議集会に関する情報収集

- ・ 渋滞に巻き込まれ強盗等の被害遭遇を避けるため、ドライバー等を活用し、情報収集を行う。
- ・ 群衆は些細なことで暴徒化する可能性があるほか、当該デモ等が犯罪組織やテロ組織の攻撃対象になる可能性もあるため、決して近づかない。

(5) 安全に対する自己点検

- ・ 常に安全に対する問題意識を持ち、疑問点を確認する。
- ・ 安全対策に正解はなく、治安情勢に沿った対策を講じる。
- ・ 安全対策について、当館警備班に相談する。

(6) 平時の留意事項

- ・ 緊急時の連絡体制・優先事項等を整備する。

※ 早期に必要な情報

- ・ いつ、どこで、誰が、どのような事件に見舞われているか。
- ・ （特に日本人の）安否・負傷の程度、現在も危険に晒されているのか
- ・ 現地職員が近くにいるのかいないのか
- ・ 治安当局等関係部署への連絡手段の有無
- ・ 事前の不審動向の有無
- ・ 近隣の治安機関（レンジャー・F C・警察）を把握しておく。

(了)